

石狩湾沿岸海岸保全基本計画

令和 8 年 2 月

北 海 道

石狩湾沿岸海岸保全基本計画 目次

1. 計画の目的.....	1-1
1.1 策定の趣旨.....	1-1
1.2 計画の性格.....	1-1
2. 海岸の保全に関する基本的な事項.....	2-1
2.1 海岸の現況及び保全の方向に関する事項.....	2-1
2.1.1 海岸の概要.....	2-1
2.1.2 自然特性.....	2-2
2.1.3 社会的特性.....	2-8
2.2 石狩湾沿岸の問題点並びに長期的な課題と施策.....	2-14
2.2.1 海岸防護に関する事項.....	2-14
2.2.2 海岸環境の整備に関する事項.....	2-18
2.2.3 海岸における公衆の適正な利用に関する事項.....	2-21
3. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項.....	3-1
3.1 沿岸のゾーン区分と基本方向.....	3-1
3.1.1 ゾーン区分の設定.....	3-1
3.1.2 ゾーン特性と方向性.....	3-3
4. 海岸の保全に関する基本理念、基本方針.....	4-1
4.1 基本理念.....	4-1
4.2 基本方針.....	4-2

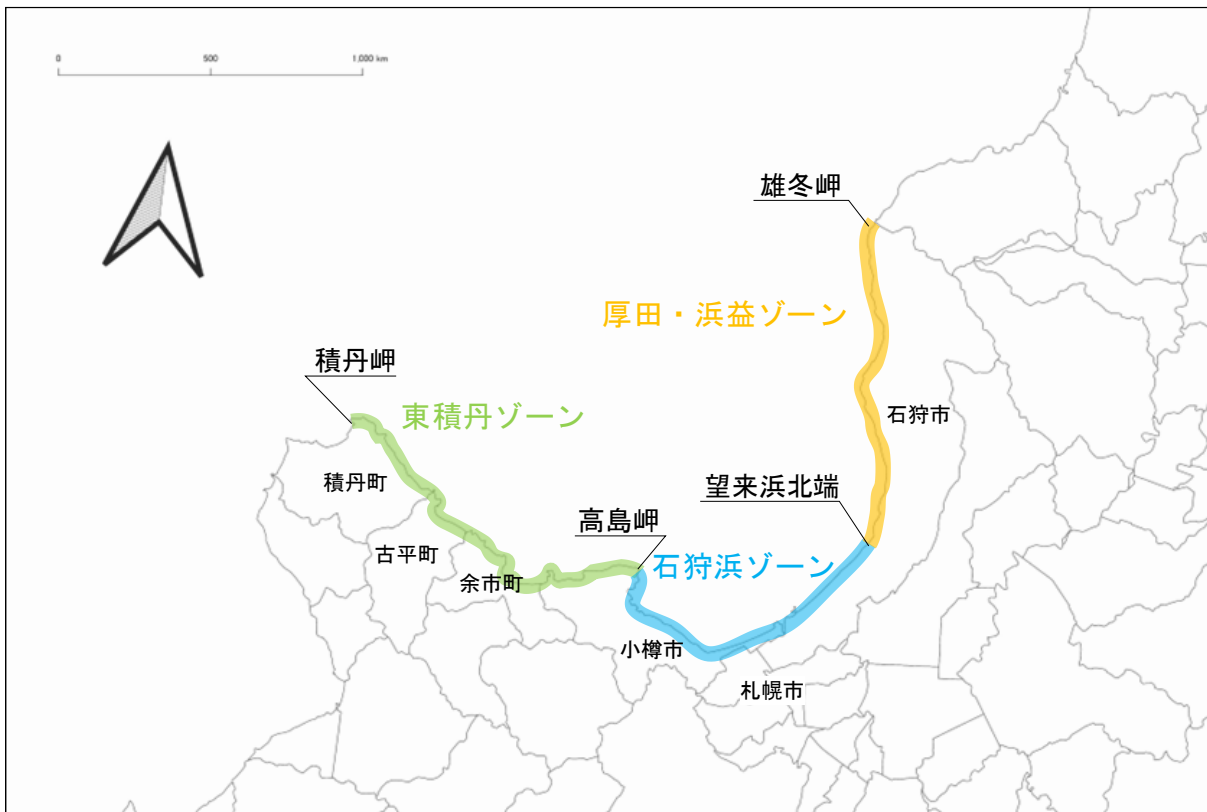
[変更理由]

国は、令和2年11月に、有識者で構成する「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会」の提言を踏まえ、海岸法に基づく「海岸保全基本方針」を変更し、気候変動を考慮した対策へ転換したところであり、令和3年8月には各海岸管理者に対し海岸保全施設の計画に必要となる波の高さなど外力の設定方法が示された。

これらを受け、北海道では、令和4年9月より有識者による検討懇談会を設置し地形や気象条件に応じた波の高さの将来予測など技術的な検討を行い、気候変動による影響を考慮した設計外力の検討を行った。

今後、検討結果を踏まえた沿岸の長期的な海岸保全の基本的方向と施策を示すため、石狩湾沿岸の「海岸保全施設の整備に関する基本的な事項」について変更する。

ゾーン区分図



注) 厚田・浜益ゾーンの厚田村、浜益村は現在の石狩市
(平成17年10月1日合併)

1. 計画の目的

1.1 策定の趣旨

石狩湾沿岸海岸は、札幌を中心に人口が集中する道央圏の背後に位置し、海岸沿いには豊かな自然と変化に富んだ景観、及び多くの人命や財産があり、それぞれが結びついて様々な海岸の利用が図られている。こうした状況の中で、近年、環境意識の高まりや心の豊かさへの要求、余暇活動の多様化等にも対応した海岸づくりが求められている。

このようなことから、災害からの海岸防護に加えて、海岸環境の整備と保全及び公衆の適正な利用の確保を図り、これらが調和するよう総合的に海岸の保全を推進するため、国が定める海岸保全基本方針に基づき、石狩湾沿岸の海岸保全基本計画を策定するものである。

1.2 計画の性格

海岸保全基本計画は、国が定めた基本理念である「美しく、安全で、生き生きとした海岸」を次世代に継承していくことを目指し、地域特性を生かしつつ、沿岸の長期的な海岸保全の基本方向と施策を示すものである。

なお、本計画は地域の状況変化や社会的・経済的・技術的な状況の変化に応じ、適宜見直しが必要なものである。特に、現段階では広域的な土砂の動態・収支や海浜変形の原因把握が十分でない所があることから、早急に漂砂実態の把握と広域的・長期的視点に立った各保全施設の計画検討の場を設けるなどして検討を進め、その結果を受けて早期に本計画を見直す予定である。

2. 海岸の保全に関する基本的な事項

2.1 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

2.1.1 海岸の概要

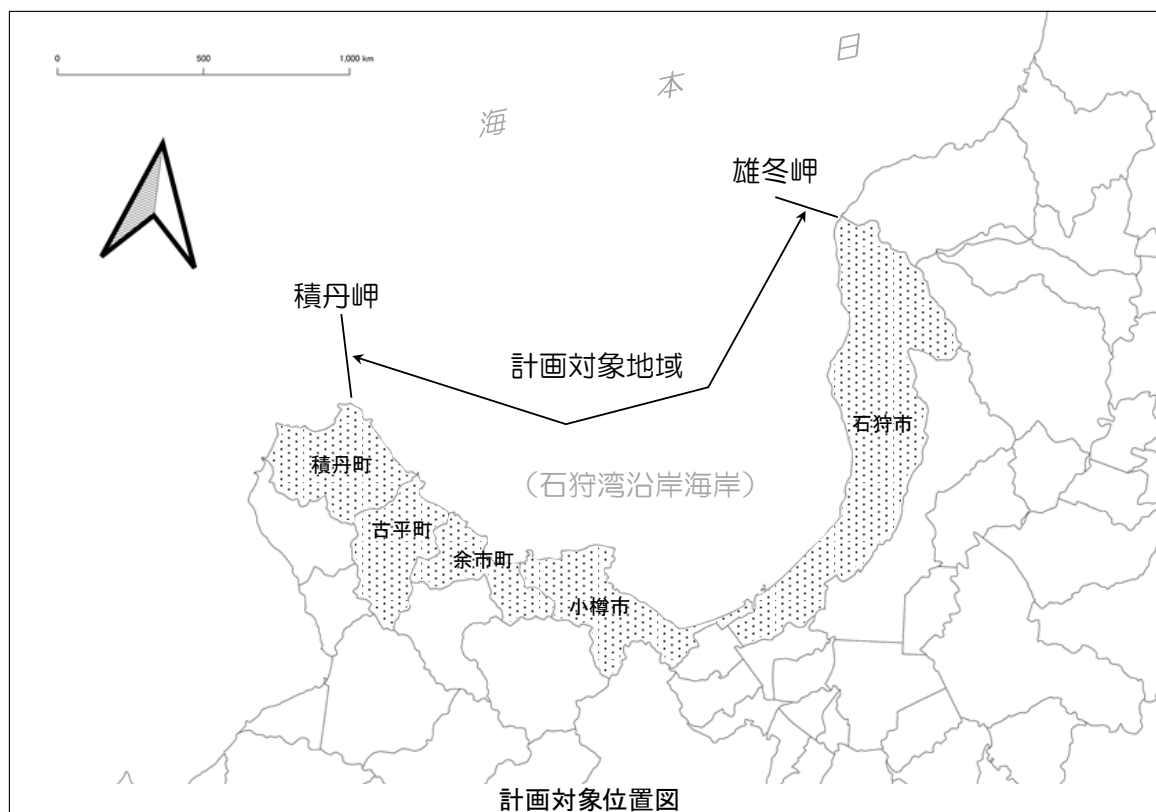
石狩湾沿岸は、後志総合振興局及び石狩振興局の2つの管内にまたがる道央圏の日本海側に位置し、後志総合振興局の積丹町、古平町、余市町、小樽市と石狩振興局の石狩市の2市、3町から構成される。

総延長約190kmに及ぶ海岸線は、小樽市銭函から石狩市厚田区南部にかけて砂浜が続く石狩低地帯を中心に配し、その両側の小樽市から積丹町及び石狩市厚田区から浜益区にかけては、台地や山地を背後に擁した岩礁海岸が連続している。

石狩市の一部の沿岸域は、暑寒別天売焼尻国定公園に、また、積丹半島の大半の沿岸域は、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されており、豊かな自然と変化と景観に富んだ海岸線が形成されている。また、石狩湾沿岸は古くからサケやニシンなどの水産資源をもとに発展した地域であり、歴史的に貴重な文化財が残されているとともに、今なお数多くの港湾や漁港が点在し、中でも石狩湾新港や小樽港は日本海における物流や海上交通の重要な拠点となっている。

また、当該地域の背後には道都札幌を中心とした札幌圏を擁していることから、道内でも利用者数の上位を占める海水浴場や先の国定公園等を背景とした各種海洋性レクリエーション施設や観光スポットなども数多く点在している。

この他、日本を代表する大河の石狩川が当該地域のほぼ中央に位置する石狩市南部から日本海へと注いでいる。



2.1.2 自然特性

(1) 気象

北海道の日本海側沿いのほぼ中央に位置する石狩湾沿岸の気候は、全体に日本海型気候を呈し、海岸部は対馬海流の影響を受けて、緯度の割には比較的温暖な地域となっている。

年間を通じた気候の変化は、4月上旬の雪解けとともに急速に暖かくなり、7月から8月にかけては気温も高く風も弱く、海も穏やかな日が続く。秋は短く、10月下旬には初雪が見られ、冬は日本海側から吹く北西の季節風が強く、海上海岸で毎秒20m以上、波浪は5mを超える日も珍しくない。特に、季節風を正面から受ける浜益、石狩などは日本海側特有の吹き上げる風によって地吹雪が発生し、視界不良や吹溜まりによる交通障害の原因にもなっている。

月別平均気温は、札幌市も含めほぼ同様の値を示すが、年平均では、内陸に位置する札幌の9.2°C以外では小樽が8.8°Cとやや高く、反対に石狩が7.9°C、美国が7.7°Cと低い。降水量は、年間の月平均で美国（積丹町）が158mmと多い以外は100mm前後である。（1991～2020.気象庁）

(2) 地形・地質

石狩湾沿岸の陸域の地形は、石狩市から小樽市銭函にかけて石狩低地帯が広がり、その両側は概ね山岳地形が連なっている。石狩市厚田区から浜益区にかけては、石狩台地、厚田丘陵、増毛山地とつながり、小樽市から積丹町にかけては手稲山系から積丹半島まで火山性の山岳が連なっている。

海岸形状は、石狩低地帯と接する石狩川河口付近に連続した砂浜・砂丘が見られるが、厚田から浜益及び積丹半島の大半は台地や山岳が海岸線まで迫り、侵食によって形成された断崖絶壁が随所に見られる険しい地形となっていて、変化と景観に富んだ海岸線が形成されている。

地質は主に第三紀層からなる火山性岩石が広く分布しているが、銭函～石狩川河口付近までの石狩海岸は砂、その背後地に広がる石狩低地は泥炭・粘土、各河川の流域には段丘堆積物の礫・砂等が見られる。

(3) 水質

石狩湾沿岸における公共用水域（石狩海域、小樽海域、余市海域）の水質は、平成3年に小樽海域でCOD（化学的酸素要求量）がやや高い4mg/lを示したものの、それ以降の経年変化は環境基準値を満たしており、A類型（基準値：2mg/l以下）で1~2mg/l、C類型（基準値：8mg/l以下）で2~3mg/lとほぼ横ばいに推移している。また、主な海水浴場（14箇所）の水質についても、平成12年度の調査結果によると海水浴場水質基準でAA、Aの「適」が11箇所、Bの「可」が3箇所となっており、特に問題は見られない。

(4) 生物相

① 植生

石狩湾沿岸において保護対策等を考慮すべき植生は、石狩海岸の砂丘や断崖絶壁の続く積丹半島の海岸域周辺に点在している。特に、石狩海岸砂丘林は、人為的影響によって極端に減少するおそれがあるほか、銭函から厚田までの25km程度に及ぶカシワ林は冷温帯地域における海岸林の典型として貴重な存在であり、海岸草原も含めた海岸植生全体としての保全が必要である。

すぐれた自然地域（植物）

すぐれた自然地域	すぐれた自然地域の要素		主要な位置	市町村名
	要素	内容		
石狩海岸	海岸植生	海岸草原等(ハマナス、ハマボウフウ、ハマニンニク等)	石狩川河口から銭函	石狩市 小樽市
	天然防風林	カシワ-ミズナラ林	同上	
石狩川下流部湿原	すぐれた天然林	ヤチダモ-ハンノキ群落等	マクンベツ	石狩市
	湿原	ミズバショウ群落等	同上	
小樽海岸	すぐれた海岸植生	エゾイタヤ群落、オショロソウ、オノイワレンゲ、ハマオトコヨモギ、ミヤマビャクシン等	忍路カブト岬、蘭島～祝津	小樽市
積丹半島	すぐれた海岸植生	オニシモツケ、エゾノカワラマツバ、ミヤマビャクシン等	積丹岬・神威岬周辺	積丹町
	天然林	ダケカンバ-ハイマツ群落、ダケカンバ-ササ群落等	ポンネアンチシ山周辺	
雄冬海岸	海岸植生	海岸断崖植生	雄冬海岸	石狩市

北海道自然環境保全指針(北海道保健環境部自然保護課)に一部補足して作成

② 陸域生物

石狩湾沿岸における重要な生態系は、哺乳類ではゴマフアザラシ、鳥類ではウミウ、シギ、チドリ、両生類ではエゾサンショウウオ、昆虫類ではヒメギフチョウ、エゾアカヤマアリ、魚類ではイシカリワカサギ、イバラトミヨ、イトヨなどがあげられる。また、石狩海岸地域には天然記念物のオオワシ、オジロワシなどが確認されている。

中でも、石狩浜の海岸草原に生息し、約45,000にも及ぶスーパーコロニーを形成する昆虫類のエゾアカヤマアリは、学術的観点からも大変貴重なものとなっている。

すぐれた自然地域(生態系)

すぐれた自然地域	すぐれた自然地域の要素		主要な位置	市町村名
	要素	内容		
石狩海岸	海獣回遊地	ゴマフアザラシ	石狩川河口	石狩市 小樽市
	特異な昆虫等生息地	エゾアカヤマアリ、キタホウネンエビ	石狩海岸草原・海岸林	
	水鳥類飛来地	シギ・チドリ類等	石狩川河口	
石狩川下流部湿原	森林性・草原性鳥類繁殖地	オオジュリン、カッコウ、カラ類等	マクンベツ	石狩市
小樽海岸	森林性鳥類繁殖地	アオバト	張碓	小樽市 余市町
	海鳥類繁殖地	ウミウ、カモメ類等	塩谷海岸	
	特異な昆虫等生息地	ミンミンゼミ	蘭島	
雄冬海岸	海鳥類繁殖地	ウミウ、カモメ類等	雄冬海岸	石狩市

北海道自然環境保全指針(北海道保健環境部自然保護課)に一部補足して作成

③ 海域生物

石狩湾沿岸における海域生態系で特記すべきものとしては、北海道レッドリストの希少種(存続基盤が脆弱な種または亜種)にトドが示されており、雄冬岬周辺及び積丹半島一円がトドの分布域となっているほか、北海道自然環境保全指針における貴重な分布域としては、石狩海岸の海獣回遊地(ゴマフアザラシ)や小樽海岸や雄冬海岸の海鳥類繁殖地(ウミウ、カモメ類等)などがある。

この他、石狩海岸(銭函～石狩)を除く石狩湾沿岸の大半がガラモ、コンブ、ワカメ、アオサ・アオノリ等の藻場となっており、特に、積丹半島のワカメ場は道内を代表する分布域となっている。しかし、近年においては消滅してしまった藻場なども見られ、石狩湾沿岸内では、第4回保全環境保全基礎調査によると浜町：3ha(古平町)、高島岬：1ha(小樽市)、祝津：1ha(小樽市)、茅紫岬：2ha(小樽市)、室蘭沢：4ha(石狩市浜益区)などで藻場の消滅が確認されている。

また、貴重種ではないものの、サケ・マスやニシンなども地域における貴重な資源となっている。

(5) 海岸景観

石狩湾沿岸には、ニセコ積丹小樽海岸と暑寒別天売焼尻の2つの国定公園があり、どちらも日本海の荒波によってつくられた美しい岩礁と断崖絶壁を有し、優れた自然景観を形成している。

主な海岸景観としては、石狩海岸の砂丘、小樽海岸の中規模海食崖、祝津・オタモイ、忍路海岸、高島岬、雄冬海岸の大規模海食崖、積丹半島の積丹岬、黄金岬等がある。

また、その他の主な自然景観としては、奇岩・景岩のセタカムイ岩(古平町)、ローソク岩(余市町)等がある。

自然公園の指定状況

名称	概要	面積(ha) 指定年月日	関係市町村 (石狩湾沿岸)
ニセコ積丹小樽 海岸国定公園	ニセコ連峰と雷電海岸、積丹半島から小樽に至る海岸を含む海陸にわたる公園で、優れた山岳景観と海食崖の連続する勇壮な海岸美を特色とする。また、道内の公園で唯一海中公園地区が指定されている。	19,009 (陸域) 43.6 (海中公園地区) (海岸延長：約55km) S.38.7.24指定	積丹町、古平町、 余市町、小樽市
暑寒別天売焼尻 国定公園	暑寒別岳を主峰とする山岳・溪谷・山地型湿原と雄冬岬・送毛・濃昼の海食海岸の地域及び日本海に浮かぶ天売・焼尻両島の地域からなる、自然性の高い変化に富んだ景観を特色とする。	43,559 (海岸延長：約25km) H.2.8.1指定	石狩市

※ただし、面積は公園全域の面積を示し、海岸延長は5万分の1地形図より計測。

鳥獣保護区一覧

名称	区分		指定		面積(ha)		関係市町村
	国・道	保護区	年月日	告示番号	計	特保	
送毛鳥獣保護区	道設	森林鳥獣生息地	S59.10.1	1774	452	-	石狩市
濃昼鳥獣保護区	道設	森林鳥獣生息地	S60.9.30	1668(特保 1669)	342	52	石狩市
余市鳥獣保護区	道設	森林鳥獣生息地	S61.9.22	1534(特保 1535)	340	64	余市町

出典：北海道鳥獣保護区等位置図別冊編（北海道環境生活部環境室支援環境課）

(6) 海岸変形特性

① 海底地形・地質

海底地形は、汀線から水深10m付近までが勾配が最も急で1/100、水深30~40mが平坦で1/600~1/700、水深50mまでの平均で1/480となり、非常に緩やかな勾配を呈している。

泥を多く含んだ土砂が石狩川から流れ込み、河口北東海域と小樽沖に堆積している。

② 底質

底質が砂である石狩海岸の新港から銭函までの中央粒径は、岸から沖に向かって、また新港から大浜付近までは小さくなり、銭函付近では反対に大きくなっている。

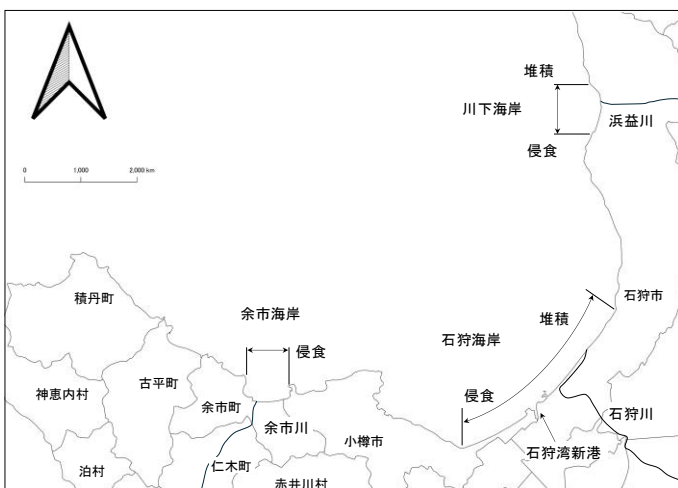
③ 波浪・流況

波浪条件は、高波の状況には地域的な差は見られない。うち、石狩海岸の波浪特性は、各季節とも北北西から西北西の間に波の襲来方向があり、夏期を除いて北西方向から波が卓越している。この方向は、湾口方向とほぼ一致していることから、湾奥海岸線と直角をなしている。また、波の高さは静穏な日の多い夏期としけの多い冬期との差が非常に大きく、2m以下の波の出現率は夏99%に対し冬75%となっている。

流況は、冬期に南西流、夏期に北東流、春・秋期はその遷移期となっている。冬期の流況は風況の受け、海風、陸風時の補償流以外に積丹半島の影響による風の場所的な分布が、湾奥における全層的な時計回りの流れ（汀線に平行な南西方向の流れ）を発生させている。

④ 海岸侵食

石狩湾沿岸において砂浜が2km以上連続する海岸としては、余市海岸、石狩海岸、川下(浜益村)海岸の3つの海岸があり、これら代表的な砂浜海岸の侵食状況は、汀線変化より次頁のような特性が見られる。



<参考>海岸侵食の主な要因

◆海岸の構造物に起因するもの

- ・ 一方向からの沿岸漂砂が卓越する海岸において、防波堤などの施設が設置されることで、その下手側が侵食
- ・ 沖合に防波堤や離岸堤が設置されることで、波の静かな場所に沿岸漂砂が移動する反面、その周辺で侵食

◆河川からの土砂供給に起因するもの

- ・ 河川改修や砂防工事、砂利採取などにより、河川から海岸に供給される土砂の減少

2km以上の連続性を持つ砂浜海岸

- ・ 余市海岸（余市港～蘭島）：全体的には侵食傾向
- ・ 石狩海岸（銭函～望来）：石狩湾新港の右岸側は堆積傾向、左岸側は侵食傾向
- ・ 川下海岸（銭函～望来）：浜益川の右岸側は堆積傾向、左岸側は侵食傾向

【余市海岸】

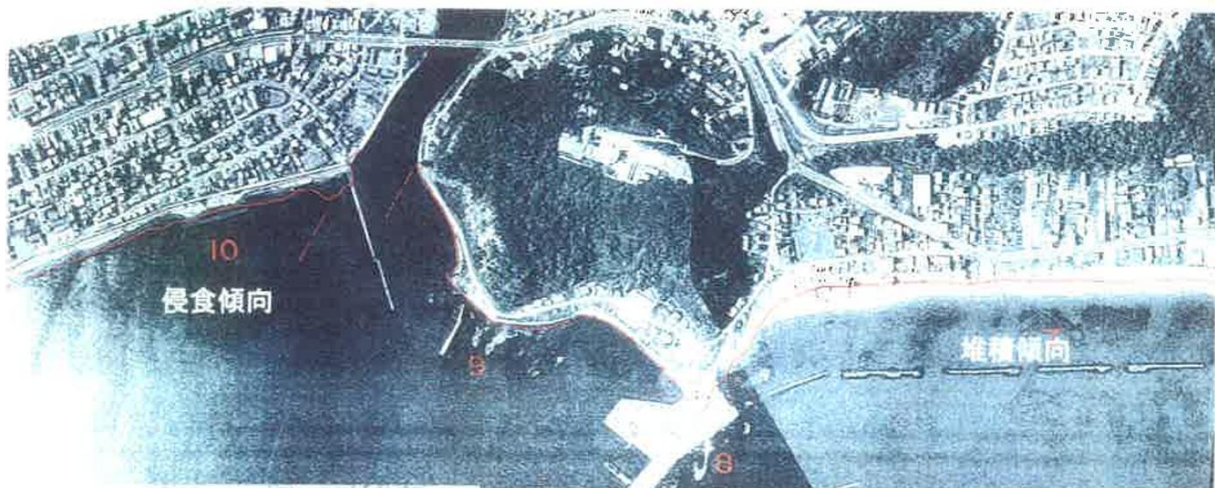
- 余市海岸は部分的に土砂の堆積が見られるものの、全体的には侵食傾向となっている。沿岸漂砂の卓越方向は明らかではない。

【石狩海岸】

- 石狩海岸は石狩湾新港の右岸(東)側沿岸で堆積傾向、左岸(西)側沿岸で侵食傾向を示している。現状の侵食や堆積は、主に石狩川からの土砂供給と沿岸漂砂や岸沖漂砂といった海岸全体の土砂収支の不均衡によって生じている。うち沿岸漂砂量は、石狩川河口から石狩湾新港間の南西向きが卓越している。

【川下海岸】

- 川下海岸は、浜益川の右岸(北)側で堆積傾向、左岸(南)側で侵食傾向となっている。沿岸漂砂の卓越方向は明らかではない。



余市海岸、余市川河口付近の状況(写真は平成4年、赤線は昭和22年)



石狩海岸、砂浜の侵食による砂崖

2.1.3 社会的特性

(1) 人口

石狩湾沿岸の5市町の人口は、令和2年国勢調査によると190,744人で、全道の人口(5,224,614人)の約3.6%を占めている。また、人口密度は124人で全道の約67人/km²を大きく上回っている。

人口の推移は、平成27年の同調査との比較で地域全体で減少傾向にあり、中でも減少の著しい地域としては、古平町(-13.9%)、積丹町(-13.4%)となっている。このような人口減少の要因としては、基幹産業である第1次産業の低迷や若年層を中心とした人口の流出などがあげられる。

また、過疎化は高齢化の進行にも拍車をかけており、65歳以上の高齢者人口の割合は39.1%にのぼり、全道平均の32.1%を上回っている。

(2) 産業

石狩湾沿岸の5市町の全就業者数は、令和2年国勢調査によると88,217人で、全道(2,636,824人)の3.3%を占めている。市町村別の産業別就業構造について全道平均と比較すると、第1次産業のシェアの高い町は、積丹町(29.3%)、余市町(17.3%)、古平町(14.6%)が全道平均(6.3%)を大きく上回っている。また、全就労者数のうち漁業就労のシェアでは、積丹町(21.4%)、古平町(11.6%)については、全道平均(1.1%)を大きく上回っており、地域における漁業の重要性を伺うことができる。

一方、第3次産業のシェアが高い市町村は、小樽市(81.4%)が全道平均(76.8%)を上回っており、石狩市(71.0%)がそれに次いでいる。また、第2次産業では、古平町(27.0%)が全道平均(16.9%)を大きく上回っている。

このほか、背後の低地や台地においては、畑作や集約的な野菜・果樹栽培等の農業が営まれ、特に余市周辺は全道でも有数の果樹栽培が盛んなところで観光農園が多くみられるほか、石狩湾新港の背後地には大規模な工業用地が広がっている。

(3) 漁業

石狩湾沿岸の漁業は、サケ・マス、タラ・スケトウダラ、ホッケ、イカ、タコなどを主体として、令和5年度の生産量が33,403トン、生産額が100.15億円となっており、全道と比較して生産量で2.9%、生産額で3.4%を占め、漁業生産の量に比べて金額がやや高くなっている。

(4) 交通

① 道路

石狩湾沿岸の道路網は、地域の内外を結ぶ下記の6路線の国道を骨格として、道道及び各市町村道の道路ネットワークが構成されている。

沿岸を通過する国道は、札幌から小樽・余市間に国道5号、余市から積丹方面に国道229号(愛称：追分ソーランライン)、札幌から石狩・厚田・浜益方面に国道231号(愛称：オロロンライン)、小樽と石狩間の国道5号と国道231号の間を国道337号が結んでいる。また、沿岸から内陸部への国道は、余市から倶知安・長万部方面に国道5号、小樽から赤井川方面に393号、石狩から江別・千歳方面に国道337号、浜益から滝川方面に国道451号が結んでいる。

この他、札幌-小樽間は札幌自動車道でも結ばれており、札幌からは道南・道北方面の主な都市と直結している。

② 鉄道・バス

鉄道は、JR函館本線が札幌から小樽市・余市町を経て倶知安・長万部方面へと結ばれている。しかし、特急・急行は季節運行列車を除き定期運行はなく、また、小樽以西では運行頻度も1時間に1本程度と少ない状況にある。

路線バスは、札幌を起点とする長距離(高速)バスが小樽・余市・積丹方面、及び石狩・厚田・浜益方面を結んでいるのをはじめ、各市町村間にローカル路線のネットワークが形成されている。

しかし、近年はマイカーの依存傾向の高まりなどから、これら公共交通機関の利用率は低下傾向にあり、路線の存続や便数の減少などが懸念されている。

③ 海上交通

石狩湾沿岸の海上交通は、小樽港から日本海を通過して、舞鶴港(京都府)、新潟港(新潟県)の各都市へフェリーの定期航路が結ばれ、日本海側における産業や観光の重要なルートとなっている。

④ 港湾・漁港

石狩湾沿岸には、重要港湾の小樽港、石狩湾新港及び地方港湾の余市港の3つの港湾と16の漁港があって、港湾は札幌をはじめとする道央地域を背後圏として日本海側における重要な物流拠点として発展してきた。また、漁港は沖合・沿岸漁業の拠点として重要な役割を担っているほか、札幌に近接している利点を生かして「朝市」などの産直事業も行われている。

この他、小樽と余市にはマリナーが整備されており、近年の海洋レクリエーションのブームに伴い、道央圏におけるプレジャーボートや水上バイクなどといったマリンスポーツの拠点となっている。

石狩湾沿岸の港湾・漁港

港湾	重要港湾	小樽港、石狩湾新港
	地方港湾	余市港
漁港	第1種	濃屋漁港、厚田漁港、古潭漁港、祝津漁港、塩谷漁港、忍路漁港、余市漁港(本港、出足平、島泊、湯内)、幌武意漁港
	第2種	浜益漁港(浜益、群別、幌)
	第3種	古平漁港、美国漁港

(5) 歴史・文化

石狩湾沿岸の海岸周辺は、豊かな海産資源を求め道内でも比較的古くから開拓が進められてきたところである。特に、サケやニシンにかかわる歴史・文化が多く残されており、石狩湾沿岸における国または道指定の歴史・文化施設としては以下のようなものがある。

石狩湾沿岸の主な歴史・文化施設

名称	所在地	指定年月日	摘要
●重要文化財(国指定)			
旧下ヨイチ運上家	余市郡余市町入船町10番地	S46.12.28	嘉永6年(1853)の建築といわれ、松前藩が80ヵ所ほども受けた運上家の中で現存する唯一のもので、近世北海道の歴史を知るうえで貴重な遺構。
旧日本郵船(株)小樽支店	小樽市色内3丁目7番8号	S44.3.12	明治の洋風石造建築を代表する建物のひとつで、落ち着いた重厚なデザインに統一されている。
旧手宮鉄道施設	小樽市手宮1丁目	H13.11.14	明治13年(1880)に手宮と札幌間に引かれた北海道の鉄道発祥の地で、現存する日本最古の機関車庫があり、蒸気機関車が主流だったころの鉄道システムを現在に伝えている。また、これらが保存されている小樽市総合博物館(本館)には、数多くの鉄道資料が保存・展示されている。
●有形文化財(道指定)			
にしん漁場建築	小樽市祝津3-228	S35.5.31	古宇郡泊村の田中鯨番屋とした明治30年代に建造された総面積611.9m ² の本道鯨漁家の代表例である。昭和33年に現在地に移築。
天内山遺跡出土の遺物	余市郡余市町入船町21 余市町立水産博物館	S515.21	チャシ跡である台地上に貝塚、祭場、墳墓等が存在する複合遺跡で縄文、続縄文、擦ブン及びアイヌの各文化期にわたる遺物で貴重。
木造五百羅漢像	小樽市潮見台1丁目19番10号	H6.2.9	寛永7年(1630)に松前藩福山に建立されたものが、明治42年(1909)に羅漢像や建物の部材とともに小樽に移設され、近世における北海道での信仰を物語る貴重な資料である。
●史跡(国指定)			
手宮洞窟	小樽市手宮町手宮公園内	T10.3.3	慶応年間に石工・長兵衛が発見した。フゴッペ洞窟と同じく壁面彫刻がある。
フゴッペ洞窟	余市郡余市町栄町	S28.11.14	昭和25年に発見され、原始絵画様彫刻があり、考古学上貴重。
忍路環状列石	小樽市忍路2丁目	S36.3.10	文久元年(1861)の発見と伝えられる。わが国のストーンサークルでは規模が大きい。
旧下ヨイチ運上家	余市郡余市町入船町10番地	S48.7.31	嘉永6年(1853)に建立され、蝦夷地における交易権を、また運上金などの上納をおこなう商人の拠点であった。

次頁に続く

名称	所在地	指定年月日	摘 要
旧余市福原漁場	余市郡余市町浜中町150	S57.2.12	漁業活動(鯨・鮭)を物語る建築物が一部は失われたとはいえ、よくまとまって遺存する好例であり、江戸時代の場所請負制度とその遺制及び明治時代の漁業活動の一部を語る遺構として貴重である。
荘内ハママシケ陣屋跡	石狩市浜益区川下	S63.5.17	安政6年(1859)江戸幕府から蝦夷地警備を命ぜられた荘内藩(鶴岡藩)の陣屋の跡である。
●史跡(道指定)			
地鎮山巨石記念物(ストーンサークル)	小樽市忍路2丁目	S25.8.28	1m前後の細長い石を南東に10m、北西に128mの楕円形に配置。昭和24年に発掘調査をしたが、遺骨や副葬品は発見されず、墓拡であろうといわれている。
西崎山ストーンサークル	余市郡余市町栄町	S26.9.6	西崎山には数個のストーンサークルがある。昭和25年発掘調査したところ7ヵ所の遺構があった。

(6) 観光・海洋性レクリエーション

石狩湾沿岸は、小樽・積丹方面(追分ソーランライン)や、厚田・浜益方面(日本海オロロンライン)といった線的な観光ルートと、臨海部を主とした観光都市小樽、石狩浜を主とした都市近郊型の砂浜海岸を有し、変化に富んだ磯場や砂浜、港湾や漁港、山海の味覚など、恵まれた自然環境と景観面に支えられ、沿岸一帯が観光資源として機能している。

令和6年度の観光客入込数は、約1,272万人であり、うち約6割が小樽市の入り込みである。また、入り込みの時期は7~9月の夏期に集中しており、札幌圏を中心とする日帰りが多い傾向にある。

海岸線及び海洋の利用方法は、海水浴、海釣り、ダイビング、サーフィン、プレジャーボートなど各種の海洋性レクリエーションである。特に海水浴については、美しい海岸線と海岸景観を利用して11ヶ所(石狩管内5箇所、後志管内6箇所)もの海水浴場があり、利用者数は全道の73%を占めている。中でも銭函から石狩川河口までの石狩海岸は、人口が集中する札幌圏を背景に道内を代表する海水浴場となっている。

また、小樽市は石造倉庫の並ぶ運河沿い周辺、国内最大級の通年観光型マリーナ周辺、水族館のある祝津周辺など、臨海部を中心として全国的にも知られる観光都市となっている。

このほか、沿岸背後の平地や内陸部の丘陵地では観光果樹園やゴルフ場、キャンプ場や温泉施設など各種の観光施設が整備され、夏期を中心に観光客で賑わっている。それ以外にも、味覚と景観を求めた海岸線周辺など、多様な形態の観光に利用されている。

海岸と観光レクリエーションの関わりが深い石狩湾沿岸では、各市町村の地域特性を活かした中で、冬期間も含めた各種観光イベントも年々盛んになる一方、通年型、体験型、滞在型へ向けた観光への取り組みも盛んになってきている。

石狩湾沿岸の主なイベント

月	市町村名等	名 称
2月	小樽市	小樽雪あかりの路
4月	積丹町	積丹岳ヘリスキー
6月	積丹町	ドンとこい積丹味覚まつり
7月	余市町	北海ソーラン祭り
7月	小樽市	おたる潮まつり
7月	古平町	天狗の火渡り
7月	古平町	琴平神社例大祭
8月	積丹町	お神威ソーラン祭り
8月	石狩市	RISING SUN ROCK FESTIVAL
9月	石狩市	石狩さけまつり
9月	石狩市	厚田ふるさとあきあじ祭り
9月	石狩市	浜益ふるさと祭り
9月	余市町	味覚の祭典「よいち大好きフェスティバル」

(7) 海岸災害と防災

石狩湾沿岸の海岸において、台風をはじめとする自然の猛威等で人災などを伴った特記すべく大きな(高潮・津波、越波、塩害、飛砂、侵食)災害は確認されなかった。

また、札幌管区気象台資料によると、昭和56年～平成12年の20年間における主な災害としては、石狩湾沿岸も含めた広いエリアを含めて、波浪・高潮等による被害が昭和62年に3件、同63年に2件、平成10年に1件発生している。

石狩湾沿岸における気象災害一覧

<S56～H2>

年月日	種別	場所	
S62.2.25～27	大雪 強風 波浪	宗谷 留萌 後志	日本海から発達しながらオホーツク海に進んだ低気圧。交通関係：鉄道運休72便、フェリー欠航18便及び羽幌～天売・焼尻航路全面欠航、道路不通27箇所、土木被害：防波堤決壊(10m)、栈橋破損(20m)、護岸決壊(507m)、船揚場決壊(15m)、護岸決壊のため工場半壊1棟、海難：漁船小破28隻、磯船沈没1隻、流失3隻
S62.4.21～22	強風 融雪 波浪	空知・渡島 後志・檜山 根室 十勝	朝鮮半島から発達し稚内西方沖に北東進した低気圧。人身事故：行方不明2名(漁船から転落)、負傷2名、建物・住家全壊1棟、半壊・一部破損53棟、農業被害：農耕地冠水3ha、ビニールハウス被害718箇所、土木被害：堤防決壊3箇所
S62.8.31～9.1	強風 大雨 波浪 高潮	ほぼ全道	日本海中部から北海道を通過した台風第12号から変わった低気圧による強風及び高波。人身事故：死者2名、負傷者52名、建物・住家全壊19棟、半壊69棟、一部破損1,672棟、床上浸水95棟、床下浸水66棟、非住家全壊303棟、半壊627棟、農業被害：ビニールハウス破損等営農施設被害5,000箇所、農作物倒伏等40,962ha、土木被害：護岸決壊48箇所、道路損壊・橋梁流失22箇所、交通関係：道路不通11箇所、航空機欠航31便、フェリー欠航75便(羽幌～天売・焼尻全面欠航)、水産被害：施設と漁具被害1,640件、海難：漁船沈没と流出509隻、漁船破損1,108隻、林業被害額9億6,340万、街路樹と公園樹倒伏(被害額6億4,294万以上)
S63.2.2～4	暴風雪 大雪 強風 波浪	宗谷 留萌 後志	日本海から発達しながら北東進しオホーツク海に進んだ低気圧。建物・住家一部破損11棟、交通関係：JR運休及び遅延16便、バス運休21便、航空機欠航33便、フェリー欠航18便及び羽幌～天売・焼尻全面欠航、道路不通14箇所、土木被害：漁港防波堤損壊1箇所
S63.10.28～31	強風 大雨 波浪 高潮	宗谷 網走 後志 根室	根室と渡島半島付近の低気圧。その後、本州東海上を北東進してきた低気圧と一つになり、千島南海上で台風並に発達。人身事故：負傷3名、建物・住家全壊1棟、半壊1棟、一部破損131棟、床上浸水80棟、床下浸水58棟、非住家全壊4棟、半壊27棟、農業被害：畑冠水127ha、営農施設278箇所、土木被害：崖崩れ2箇所、道路損壊35箇所、護岸決壊99箇所、交通関係：道路不通3箇所、JR運休14便、航空機欠航13便、フェリー欠航35便、水産被害：漁船沈没損傷113隻、定置網破損・流失50件

出典：北海道の気象災害年表(札幌管区気象台、S56～H2)

<H3～H12>

H10.9.16～17	強風 大雨 波浪	後志	台風5号が、16日に本州を縦断した。脊森県から太平洋に抜けたが、北海道に再上陸し、千島列島沿いで温帯低気圧となった。建物・住家：一部破損5棟、床上浸水積丹町2棟、床下浸水39棟、農業被害：耕地流出等44ha、農作物167ha以上(一部不明)、土木被害：土砂崩れ4箇所、橋一部損壊1箇所、誰岸一部損壊5箇所、交通関係：道路不通3箇所、JR約10時間不通、航空機欠航13便、フェリー9時間遅れ、水産被害：漁港施設1箇所、水産製品2件4500万、漁具網破損2件
-------------	----------------	----	---

出典：異常気象・気象災害資料(石狩、後志)(札幌管区気象台、H3～H12)

2.2 石狩湾沿岸の問題点並びに長期的な課題と施策

2.2.1 海岸防護に関する事項

(1) 海岸の防護目標

① 目標

石狩湾沿岸は、古来より自然と共に育まれた海域と陸域からなり、環境の急激な変化や海岸災害の発生、各種利用間の競合など、様々な問題が生じている。このため、これらの諸問題を解決するとともに、地域住民生活の健全な発展と国土の有効な利用を促進するため、安全な海岸づくりを進める必要がある。

② 防護すべき地域

本計画における防護すべき地域は、海岸保全施設が整備されない場合に、防護水準として設定した波浪等による浸水や現在進行中の侵食により、海岸背後の家屋や土地に対して被害の発生が想定される地域とする。

波浪に対しては、防護水準として設定した潮位及び波浪が発生した場合の浸水区域とし、侵食に対しては、現在と同じ速度で50年間侵食が進むと想定した場合の影響範囲とする。

また、津波に対しては「最大クラスの津波に比べ発生頻度が高く（数十年から百数十年に一度程度）、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（L1津波）」が発生した場合の浸水区域とする。

(2) 海岸防護に関する現状、課題及び施策

① 海岸保全施設の効果維持

□現状

石狩湾沿岸は、強い季節風による冬期波浪や台風によって海岸侵食の被害を受けているほか、想定されている越波や浸水などに対処すべく離岸堤・護岸等による海岸保全施設の整備が進められているところである。しかし、総合的な土砂収支が把握されていないことや保全機能がまだまだ不十分な箇所もあるほか、既存の施設においても老朽化が懸念されている。

□課題

・背後地で生活する人々の安全を確保するために、所定の機能が不足している施設や老朽化している施設の改良および施設の新設など、海岸保全施設による防護機能の保持が必要である。

□施策

- ・施設機能の適切な保持を図るための維持補修、また機能が不足している施設や老朽化している施設の改良および新規の施設整備を効果的に進める。
施設整備においては建設コストと背後地への効果を勘案するとともに優先順位を考え、広範囲にわたり防護効果が発揮されるよう効率的な整備を行う。
- ・海岸保全施設の日常的な点検や維持管理などについても損害や異常箇所の早期発見・補修などを行うことができるよう、継続的かつ適切に行う。

② 海岸保全施設整備における環境・利用への配慮

□現状

- ・根室沿岸は変化に富んだ長大な海岸線、すぐれた景観などの自然環境に恵まれており、それらを活かした観光、海洋性レクリエーションも行われている。またオホーツク海の良好な漁場を活かした漁業の盛んな地域であり、多くの漁港が整備されている。

□課題

- ・海岸保全施設の整備に際しては、背後地の保全などの防護面だけではなく、豊かな自然環境や景観の保全、漁業への影響や観光、海洋性レクリエーションの利便性など多面的な配慮が必要である。

□施策

- ・防護するだけではなく、利便性にも配慮し、緩傾斜護岸などの整備といった海岸へのアクセス性の向上にも配慮する。
- ・美しい景観、優れた消波機能を持つ砂浜や、海浜植生も含めた自然海岸の維持に十分配慮し、より高質で安全な海岸整備を行う。

③ 砂浜の保全

□現状

- ・石狩湾沿岸では土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。海岸侵食が進むと陸地への浸水被害等が広がるほか、護岸、堤防等の海岸保全施設の基礎を洗掘してしまうため、施設の機能低下の要因ともなる。また砂浜は天然の防災機能、海水浄化機能を有し、景観・利用面からもその機能は重要である。

□課題

- ・海岸侵食の対策としては、沿岸漂砂の連続性を勘案するとともに流域の源頭部から海岸までの一貫した土砂収支の定量的な把握を行う必要がある。

□施策

- ・海岸侵食に関する調査研究により広域的な土砂収支の把握及び、侵食原因の解明を図るとともに必要に応じて関係機関と連携した対策を行う。
- ・海岸侵食の対策を緊急に要する海岸については、早急に海岸保全施設の整備を行う。

④ 防災ソフト対策の充実

□現状

地域の防災体制としては住民の生活と財産を守り、安心して暮らせる災害に強いまちづくりのため、地域防災計画の策定など各市町で防災知識の普及、防災活動体制の整備などに取り組んでいる。

□課題

越波や浸水の災害に対する防護は単に海岸保全施設の整備だけでなく、緊急時の避難経路の確保、災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信、さらに土地利用の調整などソフト面における対策などが必要である。

□施策

- ・津波、越波や浸水の災害に関しては海岸保全施設の整備だけでなく、地域と連携して災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信などソフト面における対策を行う。

2.2.2 海岸環境の整備に関する事項

(1) 海岸環境に関する現状、課題及び施策

① 沿岸域における動植物の生息・生育環境の保全

□現状

石狩湾沿岸には豊かな自然を背景に多種多様な動植物が生息し、優れた生態系を形成している。沿岸の陸域にはすぐれた自然地域として海岸断崖植生や天然防風林、海浜植生があり、これらの地域は多くの昆虫類、両生類、鳥類などの重要な生息環境となっている。このうち、ハマナス・ハマボウフウなどの海浜植物が広く分布する石狩海岸には、自然環境の保護と情報提供の拠点として「石狩浜海浜植物保護センター」があり、保護と回復に向けた活動がなされている。また、海域のうち岩礁海岸ではニシンの産卵場所やウニやアワビなど磯根資源の成育に不可欠な藻場も多く存在しており、砂浜海岸ではヒラメやホッキ貝が生息しているなど、海の個性に対応した水産生物の生育環境が形成されている。

□課題

・これらの環境は、生息する動植物はもとより、地域住民の生活環境、漁業や環境、レクリエーションなどの産業においてもかけがえのない貴重な資源であり、憩いと安らぎを供与する重要な場である。

□施策

- ・被害が深刻な石狩海岸の海浜植物においては、地域住民及び保護センターとの連携を図りながら、生息地域内の立ち入り規制や保護教育・保護活動の長期的・継続的な施策に対して支援協力していく。
- ・施設整備を行う際には、必要に応じて事前の調査を実施し周辺環境に配慮した配置、構造等の検討を行う。

② 海岸景観の保全

□現状

石狩湾沿岸は、ニセコ積丹小樽海岸国定公園と暑寒別天売焼尻国定公園の2つの自然公園を有し、奇岩・景岩及びポケットビーチなどが数多く見られる変化に富んだ海岸線が存在している。海岸線は積丹半島が「追分ソーランライン」、厚田・浜益が「日本海オロロンライン」と称されるドライブコースとなっており、多くの利用者が海岸景観を享受している。

□課題

・近年の海岸利用者の増加にともない砂浜、岩場でのゴミによる景観悪化が社会問題化している。

・観光資源としても重要な役割を担う沿岸域は、安全性を確保しつつ地域にふさわしい海岸景観の保全が求められており、優れた海岸景観を損なうことなく整備していくことが必要である。

□施策

・これらゴミ問題に対しては、従来のボランティア活動等の清掃活動をより推進していく一方、地域の海岸愛護の活動を促す環境教育などを進めながら、地域住民及び利用者の自然との共生意識の啓発などにより適切な海岸利用の確立を図る。

このため、沿岸域における構造物の設置等については、周囲に威圧感や閉鎖感のないよう色彩、素材、緑化などに配慮し、さらに、施設案内サインなどの設置についても、自然の風景を損なうことのないデザインを検討していく。

③ 歴史・文化の保存継承への配慮

□現状

石狩湾沿岸は、ニシン・サケ漁とともに古くから栄えた地域であり、歴史的にも貴重な文化財や遺跡が数多く見られる地域であり、地域住民にとって、石狩湾沿岸の歴史的風土の継承は、生活環境はもとより観光資源としても重要なものとなっている。

□課題

特に、海岸付近にある施設においては、これまで人が海と関わってきた歴史・文化を感じさせる海岸景観を創出しているほか、観光といった利用面からも重要な資源であることから、海岸が育んできた歴史、風土、地域文化を良好な状態で後世へ保存・継承する必要がある。

□施策

- ・地域住民にとって石狩湾沿岸の歴史的風土の継承は、生活環境はもとより、観光資源としても重要である。そのため、受け継がれてきた貴重な財産の保全、歴史・文化の保存継承について配慮する。

2.2.3 海岸における公衆の適正な利用に関する事項

(1) 海岸環境に関する現状、課題及び施策

① 多様化する利用の調整

□現状

石狩湾沿岸は、生活の場、産業の場、漁業生産の場、レクリエーションの場、交通アクセスの場として多様な利用がなされている。特に、他の沿岸域と比べ札幌圏との関わりが強いことから、温暖な夏期を中心に、海水浴、プレジャーボート、水上バイク、釣りなど海洋性レクリエーションを目的に数多くの人々が訪れている。また、古くから漁業の盛んな地域でもあり、近年では、一般者を対象とした朝市なども開催され、都市圏からの利用で賑わう観光名所となっている。

□課題

・海岸利用が活発化することで、ゴミや利用を巡るトラブルも生じ、海岸環境や地域生活面からも望ましくない状況が随所で指摘されている。

・漁港や港湾は地域の重要な交流拠点であることから、その区域内の海岸についても観光利用と漁業活動との調整を図る必要がある。

□施策

- ・今後より利用が多様化してくる沿岸域において、地域住民も一体となった海岸利用に関するルール作り、利用者に対するマナーの啓発活動を行う。
- ・新たな海洋性レクリエーションへの展開の場、地域活性化へ向けた核として環境保全に配慮しながら、一層の機能の向上と活用を図るものとする。

② 海岸利用サービスの充実

□現状

・沿岸域に暮らす人々にとって、海岸は身近な存在であり、日常生活における健康づくりや憩いの場としても利用されている。また、地域住民以外にも海水浴や釣りなどといった海洋性レクリエーションや観光を目的に多くの人々も訪れている。

・石狩湾沿岸は、多彩な自然と恵まれた資源を活かし札幌圏や空知圏を中心に毎年多くの観光客が訪れており、全市町村において地域の活性化にむけた各種イベントや祭事などが催されている。

□課題

・海洋性レクリエーション利用へのサービス機能は不十分なところも多く、また、海辺へのアクセスも容易ではなく護岸の緩傾斜化が望まれている。

・町村部においては高齢者の比率が全道平均を大きく上回っており、今後さらに高齢化が進むと予想されることから、高齢者や障害者に配慮した施設整備が求められる。

・地域によっては知名度の低さやアクセス、利便施設の整備状況等により、地域の観光資源を十分に活かしきれていないことも考えられる。

□施策

- ・地域と連携して高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく海岸で憩うことができる環境づくりを行い利便性、快適性の向上を図る。
- ・必要に応じて駐車場、公園・緑地など利便施設の不足解消、ならびに質の向上を図る。また、海辺への近づきやすさや海辺での活動が可能なパブリックアクセスの向上・改善を行う。
- ・夏期を主体とした観光シーズン以外での通年的な集客をはじめ、町村部での交流人口の増加を図るため、海岸保全整備の果たす役割も大きいことを踏まえた上で、特色ある地域産業と観光資源を融合させた体験型、滞在型の観光へ向けて積極的な環境整備と協力・支援を行う。